



国際交流フェスティバル (2025.11.1・2)

今年も「国際交流フェスティバル」として、まどかフェスティバルに参加しました。昨年は台風のため計画した活動がほぼ中止となりましたが、今回は無事ステージパフォーマンスや屋台販売を実施し、多くの来場者と交流することができました。また、市の英語・日本語スピーチコンテストとキーワードラリーに協力し、協会のPRも行いました。

ステージ



これまでも多くのイベントでお世話になったスサントさんご夫妻のご協力により、スリランカのお国紹介と伝統舞踊のパフォーマンスを行いました。お国紹介は日本と縁の深いジャヤワルダナ大統領からアーユルヴェーダに及び、舞踊は北部の伝統的なものと南部の女性の美しさを表現するものが披露されました。スサントさんもステージでスリランカのカレーをPR、「その日の体調によって、食べるとよいカレーを選びます」と「医食同源」と共通したアーユルヴェーダの考えを紹介しました。今回のまどかフェスティバルでは、参加団体がそれぞれの活動を30秒でPRするコーナーが設けられ、大園会長が登壇しました。

屋台

【スリランカのカレー・茶とその他食品の販売 (11.1)】

スサントさんご夫妻による鶏肉とじゃがいものカレー、紅茶、スパイスやお菓子の販売を行いました。特に手作りカレーは大人気で、終了時刻前に売り切れとなりました。



【OISCA 西日本研修センターによる農産物販売 (11.2)】

今年も OISCA の皆様のご協力により、海外から日本に来て農業技術を学ぶ研修生が作った無農薬の新鮮な野菜・米などを販売し、人気を集めました。

キーワードラリー・スピーチコンテスト協力



まどかぴあのキーワードラリーでの商品渡し、スピーチコンテストでの受付や会場係などを行うと同時に、ポスター等で協会のPRをしました。

バスハイク (2025.11.30)

海外から来た人とともに日本の歴史や文化を学べる場所を訪ね、学習しながら交流するこのバスハイクは、協会員だけでなく一般の方からの応募も多い人気事業です。昨年度は諸事情により中止となりましたが、今回は外国人9名（中国、カンボジア、スリランカ、フィリピン）、協会員6名、一般参加者7名の計22名で秋月を訪れました。2つのグループに分かれて伝統的な和紙の紙漉きを体験したほか、秋月城下町を散策しました。



【紙漉き体験】

「筑前秋月和紙処」にて、伝統的な和紙の原料や製紙の工程、用具などについて学んだ後、実際に紙を漉く体験をしました。繊維を簀全体に行き渡らせるのが難しかったようですが、ひとりひとり丁寧に指導していただき、参加者からは「おもしろい」という声が上がっていました。前半グループの滞在中に「秋月鎧揃え保存会」の方が立ち寄り、一緒に写真を撮らせていただきました。

【昼食】

食事処にて、そばやうどん、天ぷらなど和食を楽しみました。テーブルでは「お国にも蕎麦粉を使った麺はありますか？」「温麺と冷麺、両方ありますか？」「おうちではお国の料理と和食、どちらを作りますか？」などと会話がはずみました。

【秋月城下町散策】

散策は自由行動とし、盛りの紅葉を楽しみつつ長屋門や垂裕神社、旧秋月城黒門などを巡りました。武家屋敷久野邸に入り、伝統的な建築と庭の美しさを愛でた人もいました。葛餅のお店では置いてある武将の兜を自由に被ってよいとのこと、貴重な体験をさせていただきました。

朝倉市の秋月は、古代から交通と軍事の要地でした。鎌倉時代初期、大宰府の実務を担う原田氏の秋月種実がこの地に土着し、以後400年間秋月氏が支配しました。関ヶ原の戦の後、黒田長政が筑前国主となり、1623年に三男の長興が5万石を分与されて秋月藩が成立しました。今も歴史的な街並みを留める「秋月城下町」は、全体が国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。

ことばの交流ひろば



最近の交流内容をご紹介します。

【交通ルール (10/18)】

2026年度から導入される、自転車に関する新しいルールについて学びました。

【スポーツデー (10/25)】

皆でバドミントンを楽しみました。

【民族衣装 (11/15)】

日本の着物について学びました。

英語道場 (2025.9.30~11.25)

今年も8回シリーズで開講したリビングストーン先生の英語道場が終了し、参加者の皆さんに修了証書が授与されました。日常生活でありそうな場面での英会話をテキストを使って学習したほか、カラオケで英語の歌を歌ったり、ゲームをしたりして楽しく学びました。10月28日には先生が仮装で登場、ハロウィンの奥深い歴史についても知ることができました。



【ハロウィンの起源】

古代ケルト人の祭り「サウィン」に関連しているといわれます。ケルト暦では11月1日に新年が始まりますが、日没から日没までが一日とされていたため、10月31日の日没からサウィンに入ります。サウィンには死者の魂がこの世に帰ってくると信じられていたので、人々は悪霊を避けるために篝火を焚いたり、死者に見つからないように仮装したりしたそうです。



市民総ぐるみ防災訓練 (2025.11.29)

大地震を想定して午前9時から市内全域で行われました。協会は通訳ボランティアとして、南コミュニティセンターでの外国人避難者受け入れに伴う、受付票の記入の支援を行いました。近隣住民や技能実習生の研修施設のご協力により、多数の外国人が参加して避難所の設備を見学し、市の危機管理担当者による日頃の備えや災害時の対応についての説明に真剣に耳を傾けていました。



参加者は「防災グッズはどこで買えますか」などの質問をしたり、段ボールベッドに実際に横になってみると、熱心に取り組んでいました。

地震の多いイタリアから来た参加者へは、市の担当者から「日本の避難所はプライバシー確保などの点で整備が遅れていますが、どう思われますか」と質問がありました。イタリアの避難設備は日本のようなトイレ不足などがなく快適性が高いといわれています。参加者の答えは「日本は建物自体の耐震性が高いです」と指摘するもので、互いに長所と課題があることがうかがえました。

今回は避難してきた参加者に番号札を配布し、順に受付票の記入場所へ来てもらうという方法がとられており、受付の混雑が避けられました。一方で、参加者の母国語が多様なため通訳アプリを使いこなす必要性を感じる場面もありました。

【市民総ぐるみ防災訓練】

市内全域で同日同時刻にスタートする防災訓練です。市内全ての公民館・コミュニティセンター・小中学校などで行われます。いざという時に命や身体を守る適切な行動がとれるよう、全ての世代が参加できる総合的な訓練です。

【災害時における外国人支援への協力に関する協定】

協会が市と締結しているこの協定に基づき、毎年通訳ボランティアとしてこの訓練に参加しています。

INFORMATION CORNER



OIEA Onojo-city International Exchange Association

国際料理教室

1月18日(日) まどかぴあ

海外から来た人を講師に招いてお国料理を習い、一緒に作って試食しながら交流するイベントです。今回はイタリア出身のカタリナさんに、おばあさんから習ったという「ニョッキ」の作り方を教えてください。詳しくは協会からのお知らせをご覧ください。

国際交流パーティー

2月22日(日) まどかぴあ

今年度のしめくくりとして、会員の皆さんや協会がお世話になった方々、海外から来られた皆さんと楽しいひとときを過ごしましょう。詳しくは、後日協会からお送りするお知らせをご覧ください。※写真は昨年度のものです。



Other Organizations' News & Events

大野城ウィンターイルミネーション

今年も、まどかぴあ南側広場および市内各所で未来に向けた「希望の灯り」が美しく輝いています。ふるさと館では「ここふるメリクリ 2025 サンタさんを探そう!」というイベントが開催中、まどかぴあではオーナメント型のメッセージカードに願い事を書いて飾ることのできる「願いと希望のクリスマスツリー」が設置されています。



編集後記

今年は残暑が長く、涼しくなったと思ったらあっという間に冬がやってきました。底冷えのする日が続きますが、皆様いかがお過ごしですか。年明けにもまだまだイベントが待っています。お互い体調に気をつけながら楽しみましょう。(辻)

大野城市国際交流協会事務局：市役所 3 階 コミュニティ文化課内

Tel: 090-2067-3173

Fax: 092-573-7791 email: begin@city.onojo.fukuoka.jp